

未来への輪

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果 特別号

千歳市立向陽台中学校 学校便り 特別号 令和3年11月30日発行

【学校教育目標】
『真理を求め 心豊かに たくましく』

知性を磨き創る人 広く絆を結ぶ人
理想を求め励む人 気高く強く生きる人
すすんで道を拓く人

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年5月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、生徒の学力向上に向けた改善プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでまいります。今後も学校と家庭が、お互いの役割を認識しながら一人一人を大切に育てていきたいと考えております。

今後とも本校の取組等についてご理解・ご協力をお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果

【国語】

全国の平均正答率と比較してやや低いという結果でした。

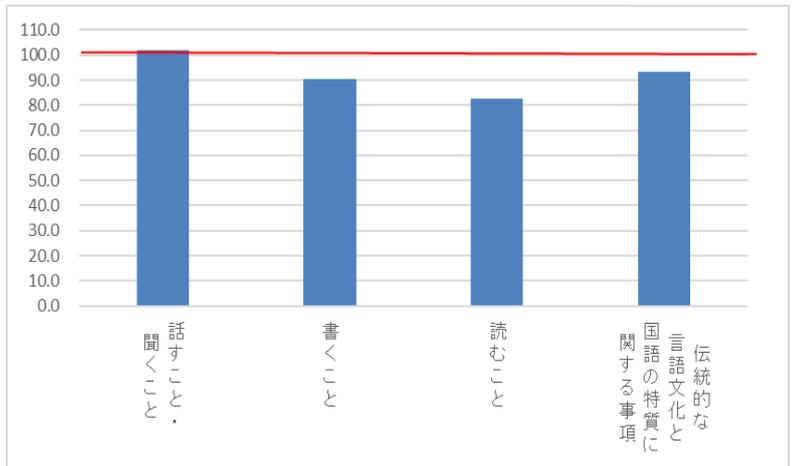
① 領域別の結果

話すこと・聞くこと

この領域の問題は3問中2問の正答率が、全国を上回りました。話し合いの話題や方向を捉えることはできています。しかし、適切な発言について考えることに少し課題があります。

書くこと

書いた文章を読み返し、語句の使い方や段落相互の関係性に注意して書くことについての選択問題は、全国とほぼ同様でした。一方、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える記述問題は、全国に比べ正答率が低く課題が見られました。



【意見文の下書き】

① SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用し、インターネット上で文字を通したりやり取りする機会が増えてきている。私は、SNSでやり取りする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えないことが正しく伝わらないことがある。^①

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで作成した相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの?」と書いたところ、「どうして行っただけなの?」という返事が来た。はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか?」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないように「おいおい書いていけば、このようなことは起こらなかったら?」

③ 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやり取りができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやり取りをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

① 山田さんは、「意見文の下書き」を読み返して、②③④のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から8までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 1 ① 段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。
- 2 ② 段落で述べている意見の根拠であることより明確にしようとした。
- 3 ③ 段落で述べている意見の根拠であることより明確にしようとした。
- 4 直前の文で述べている意見の根拠であることより明確にしようとした。
- 5 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

② 山田さんが書いた「意見文の下書き」の構成にはどのような工夫がありますか。複数の段落に着目して、あなたの考えを書きなさい。その際、②などの段落の番号を、かきながら書きなさい。
なお、読み返して文章を直したときは、二本線や消しりや付箋に書き加えたりしてもかまいません。
※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

① (正答例)
1段落で自分の意見を述べ、4段落で繰り返し述べるといふ工夫があり、伝えたいことが明確になっていてよいと思う。

正答率 58.9
無回答率 16.4

正答A 4
正答B 1

正答率 24.7
無回答率 2.7

読むこと

文章を読み、登場人物の心情や言動の意味を考えることは、比較的できています。しかし、文脈の中における語句の意味や自分の考えを持ち記述する問題に課題が見られます。無回答率も全国よりも高く、粘り強く問題に取り組む意識を高める必要があります。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

言語については、文脈に即して漢字を正しく読むことの正答率は、全国とほぼ同様でした。一方、相手や場に応じて敬語を適切に使う問題では、正答率が低く課題が見られました。

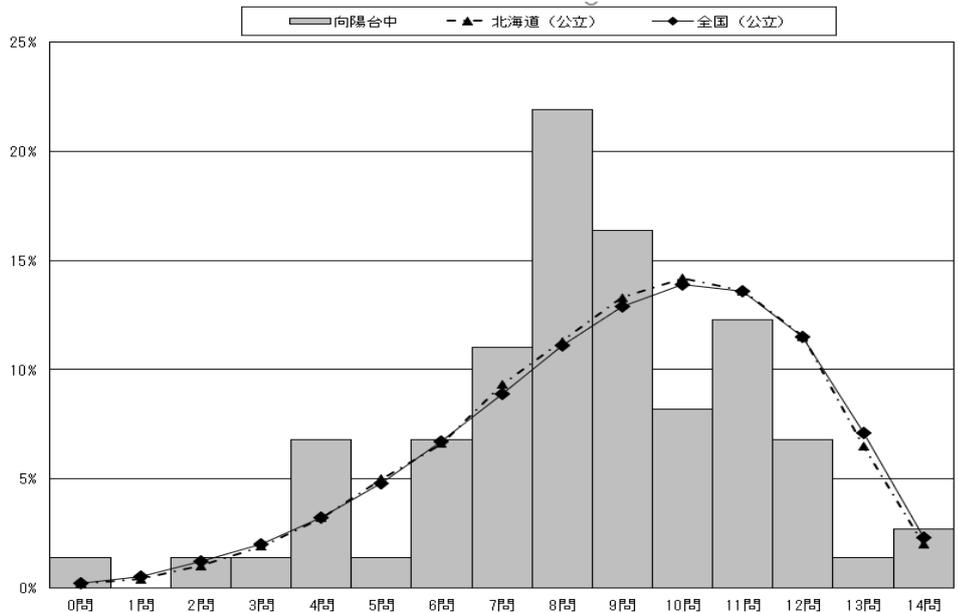
② 正答数の分布

正答数が4問の生徒の割合は全国より高くなっていますが、6問以下の割合は、全国とほぼ変わりませんでした。一方、正答数が10問以上の生徒の割合は、全国を下回っており、いわゆる上位層が少なく中間層が多い状況が見られました。

【学校の取り組みと改善策】

本校の課題は、自分の考えを読み手の立場に立って書く力や書いた文章の良い点や改善点を見つけて整えて書く力を高めることです。そのため、学校では、

①国語科や他教科の学習場面で、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書くとともに、書いた文章を互いに読み合うなどの学習活動を増やします。②理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠を知るなど、話し合う活動を通して伝える力を高めます。③文章を読むことや読書によって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感できるように指導します。また、授業アイディア例などの参考資料を積極的に活用します。



【数学】

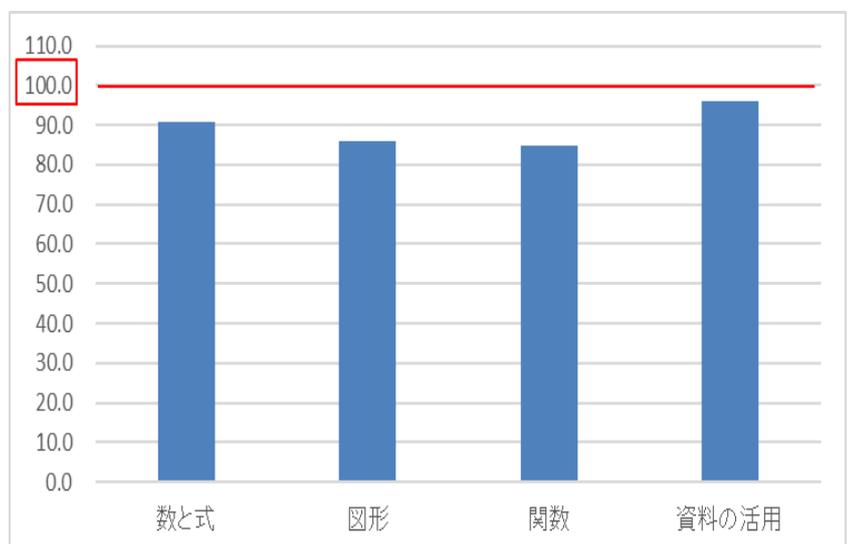
数と式

この領域の問題は5問ありましたが、数式の加法や減法や方程式をつくる短答式の問題の正答率は全国とほぼ変わらない結果でした。しかし、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する記述式の問題が、正答率が低く課題が見られました。

図形

この領域の問題では、平行四辺形になるための条件について説明することは、ほぼ全国と正答率は変わらない結果でした。しかし、おうぎ形の中心角と弧の長さや面積

全国の平均正答率と比較して低いという結果でした。



との関係についての理解や平行な2直線の錯角は等しくなることについての理解を確認する問題の正答率が低く課題が見られました。無回答率も全国を上回っていました。

関数

この領域の問題は3問でした。与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることは、良くできていました。しかし、関数の意味の理解や具体的な事象を数学的に解釈し、数学的に説明する記述式問題の正答率が低く課題が見られました。無回答率も全国を上回っていました。

数学7 日常的な事象の数学化と問題解決の方法 (砂時計)

7 学級委員の健斗さんは、2分間スピーチの時間をはかるための砂時計をペットボトルで作ることにしました。その砂時計は、ペットボトルに砂を入れ、砂を通すための穴をあけた厚紙をペットボトルの間にはさんで作ります。

健斗さんは、ペットボトルに入れる砂の重さを決めると、砂が落ちきるまでの時間が決まると考えました。そこで、砂の重さが x g のときに、砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間を y 秒として調べ、その結果を、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 調べた結果のグラフにおいて、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点はどれですか。点Aから点Dまでの中から記号を1つ書きなさい。

正答 C

正答率 90.4 無回答率 4.1

(2) 健斗さんは、2分をはかるために、砂時計に必要な砂の重さを調べます。

そこで、調べた結果のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、砂の重さが増えてもすべての点が同じ直線上にあると考えることにしました。

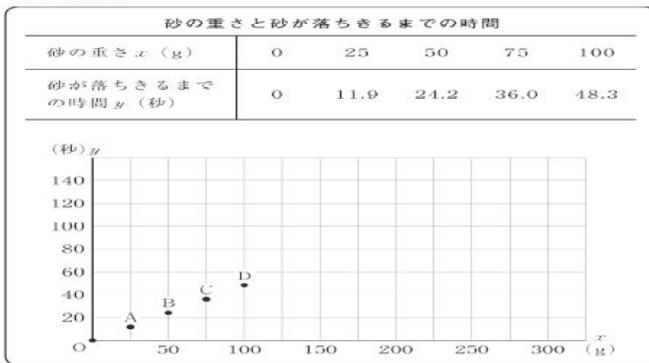
このとき、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に必要な砂の重さを求める必要はありません。

(正答例)
原点Oを通る直線のグラフをかき、 $y=120$ のときの x 座標を読む。

正答率 16.4 無回答率 31.5



調べた結果



資料の活用

この領域の問題は4問でした。与えられたデータから中央値を求める問題と2つの度数分布表から相対度数の必要性和意味を理解しているかを確認する問題で全国平均の正答率を上回っていました。しかし、グラフの特徴やデータから読み取ったことを数学的な表現を用いて説明する問題で正答率が低く課題が見られました。無回答率も全国を上回っていました。

②正答数の分布

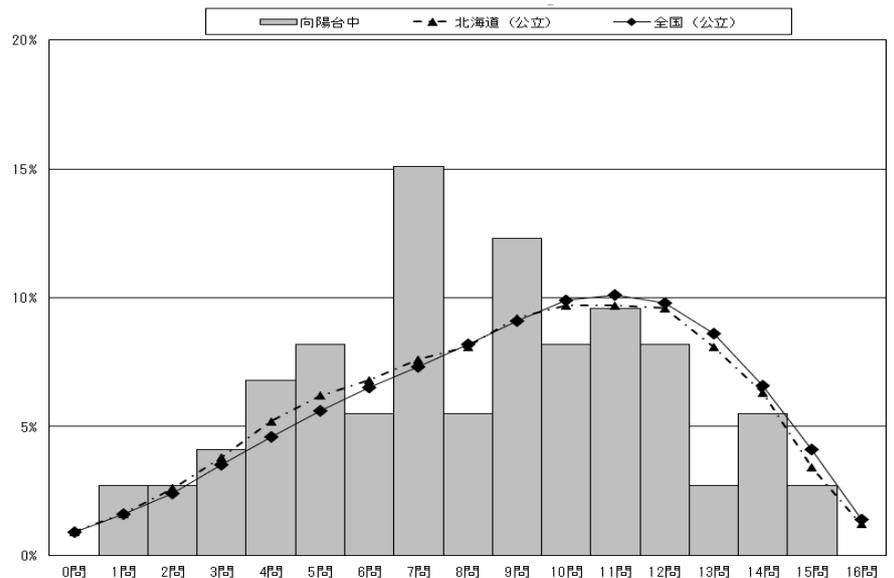
16問中7問以下の正答数の生徒の割合が全国よりかなり高くなっています。10問以上の正答数の割合は、かなり低くなっています。そのため、上位層が少なく下位層が多いという状況が見られました。

【学校の取り組みと改善策】

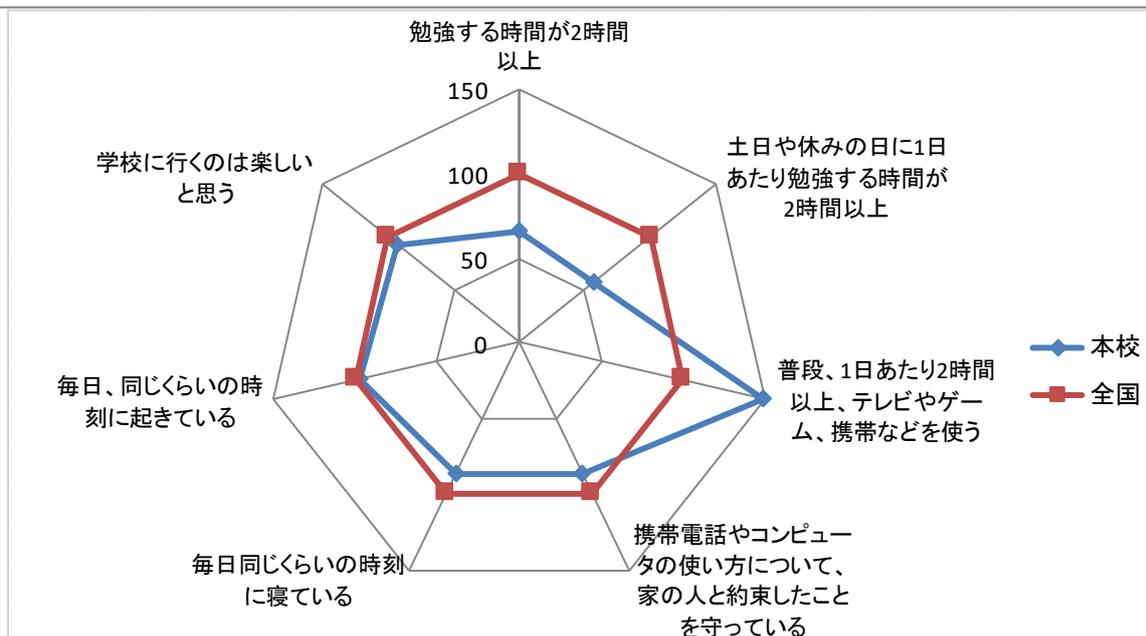
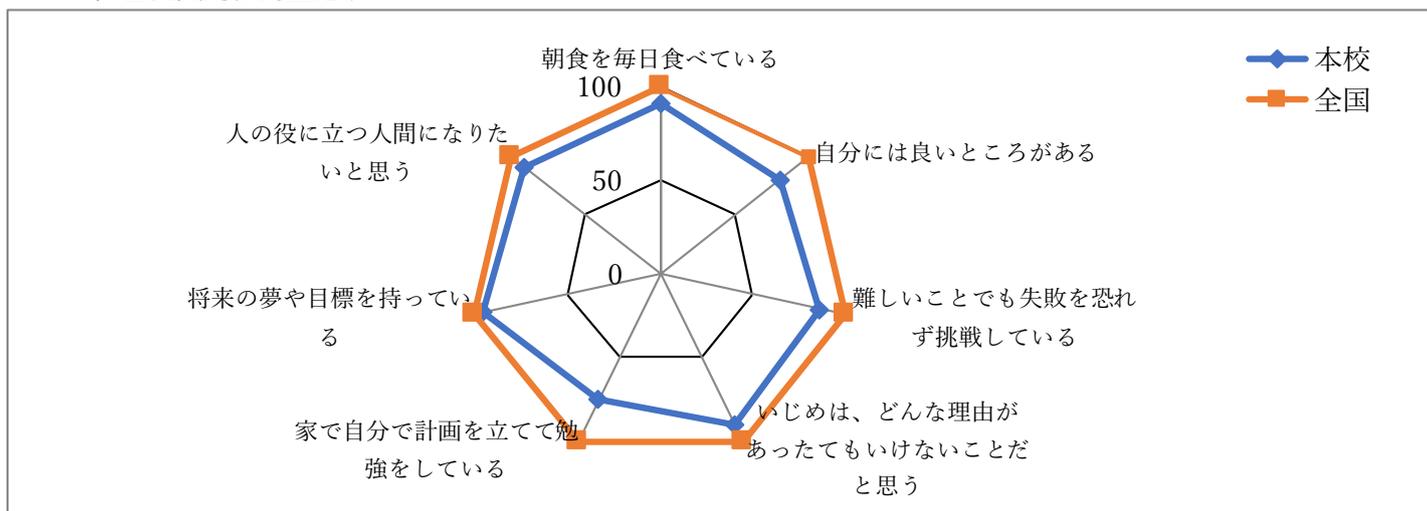
本校の課題は、図形や関数の領域で理由を数学的な表現を用いて説明したり、記述することができる力を高めることです。

そのため学校では、①図形の性質をしっかりと理解させるために、操作を通した学習活動を増やします。

②身の回りにある事象を関数関係として捉え、関数の意味を理解し考えたことを説明し合う活動の時間を増やします。③日常生活の具体的な場面で、数学を活用して筋道立てて記述する能力を高めます。また、様々な研究所などから出ている授業アイディア例などを参考にし、「できた、わかった」と生徒が実感できる授業を実践します。



2. 生徒質問紙調査結果



【生徒質問紙より今後の取り組みについて】

- 「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合は、ほぼ全国と同様の結果でした。そして、「人の役に立つ人間になりたいと思う」割合もほぼ同様の結果でした。そのような気持ちを持っていますが、「自分には良いところがある」と思っている生徒が少なく、一人一人の良さや可能性を学校と家庭が協力して伝える事が十分にできていないと考えます。今後も家庭と協力して、子ども達一人一人が自分の良いところや可能性を自覚し、夢に向かって成長できるように、取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
- 「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」生徒の割合は、全国より低い結果でした。また、「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合も低い結果でした。学校では、すぐにあきらめない『粘り強さ』や『挑戦し続ける気持ち』を持つことができるように、一人一人へ寄り添い励ましながらか「たくましさ」や「自己管理能力」を高める指導を充実させていきますので、ご家庭でもご指導をお願いします。
- 生活リズムや家庭生活環境は、健康な生活と成長に重要です。毎日朝食を食べることは、学校生活の活力となります。『早寝、早起き、朝ご飯』を意識した生活ができるように、家庭でもご指導をお願いします。
- 平日や土日・祝日に家で勉強する平均時間が全国に比べてかなり短く、テレビやゲーム、携帯電話等を使う平均時間が長いという実態でした。携帯電話などの使い方の約束が守れていないという状況から、長時間の携帯電話やタブレットの使用により、家での学習時間が短く、寝る時間も遅くなっている傾向にあることが考えられます。睡眠時間が短いことから授業への集中力低下、体調不良、夜型の生活となってしまうという悪循環が心配されます。3年生は、公立高校受験まであと3ヶ月です。家庭との連携により、生徒の健康と同時に学習意欲の向上、学習習慣の改善に取り組みたいですと思っておりますのでよろしくお願いいたします。